

通院者から聞く



▲勝浦小学校5年生の
甲斐 裕菜さん

ミニバス車内で学ぶことも

勝浦小学校に通うために、ふくつミニバスを使っています。バスにはお年寄りや乗ってくる人、上級生がその人の荷物を持ってあげたり、下級生に席を移動するようえたりしています。

利用者から聞く



▲手光に住んでいる
石津 照雄さん

通院のために利用しています

週に2回、病院に行くために、ふくつミニバスを利用しています。ふくつミニバスは私の生活に欠かせないものです。家までの距離が遠いので、もっと近所があればいいと思います。

ふくつミニバスの運行実績
平成29年度のふくつミニバス利用者の割合を見ると、70歳以上の高齢者の利用が約6割を占めています。全体の利用者数は、約8万人でしたが、ピークの年度の約8万9千人と比べると減少しています。平成29年度の運賃収入は約1千万円で、ピークの年度から約75万円減っています。

ふくつミニバスの運行には、年間約5千万円の経費がかかっています。しかし、経費のうち運賃収入が占める割合である収入比率は約20%です。路線ごとの収入比率を見ると、最も高い路線は勝浦線で約29%、最も低い路線は上西郷線で約10%です。平成29年度の運行経費をもとに、路線ごとの利用者一人当たりの輸送経費を算出すると、利用者が最も少ない上西郷線は1183円で、一般の利用者の運賃200円を差し引いた983円を税金で負担していることとなります。

公共交通機関の運行上の課題

市内で民間事業者が運行しているバスは、いずれも利用者が減少しています。ふくつミニバスは、毎年度、運行経費の約80%にあたる約4千万円を税金で負担しています。また、路線が長く非効率であるという課題もあります。ふくつミニバスをより効率的で便利にするため、民間バス路線との連携を図る必要があります。

平成29年度のふくつミニバス運行実績

路線	利用者数(人)	一人当たりの輸送経費(円)
福間周回線	15,159	601
津屋崎線	13,877	689
上西郷線	8,374	1,183
勝浦線	31,226	362
東福間・若木台線	19,850	508

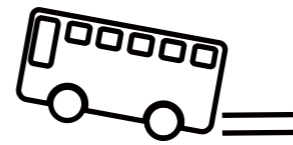
あなたの声を聞かせてください

✂きりとり
POST CARD

〒811-3293
福津市役所
まちづくり推進室行

広報 **ふくつ** 2018. 6
～公共交通の未来～

お手数ですが
62円切手を
お貼りください



市の公共交通を維持していくためには市民の皆さんのご理解とご協力が不可欠です。市内の公共交通について、ご意見をお待ちしております。いただいたご意見は今後の取り組みを進める上での参考にさせていただきます。

点線に沿って切り取り、62円切手を貼って、6月30日(土)までに投函してください。



公共交通の未来

鉄道やバス、タクシーなど、公共交通機関は私たちが日常生活を送る上で重要な役割を果たしています。しかし、利用者は年々減少傾向にあり、このままではかつての西鉄宮地岳線のようになくなってしまうかもしれません。市は、今後の公共交通の維持のために地域公共交通網形成計画を策定します。

市内の公共交通機関

市内では、民間事業者が鉄道、路線バス、タクシーを、市がふくつミニバスを運行しています。

市内の公共交通機関の中で、利用者が最も多いのは鉄道です。福間駅と東福間駅を合わせた平成28年度の一日当たりの乗車人員(降車人員を含まない)は約1万人でした。市内の路線バスは、JR九州バスと西鉄バスが運行しています。しかし路線によって

は赤字運行となっているため、市や県、国の補助金で赤字を補填しています。

タクシー事業は、全国的に利用者が減っているため、収益が減り、経営が厳しくなっていると言われています。市では人口増加に伴い、利用客は増えていますが、運転手の人手不足が深刻です。

ふくつミニバスの現状

ふくつミニバスは、平成20年4月から高齢者をはじめと

する交通弱者の支援や市民のニーズに対応するために運行しています。

現在、ふくつミニバスは民間事業者が運行するバス路線ではない地点を中心に①福間周回線(右回り、左回り)、②津屋崎線、③上西郷線、④勝浦線、⑤東福間・若木台線の5路線を運行しています。また、ふくつミニバスのようなコミュニティバスは、民間事業者で維持されている路線に影響を与えないようにするために、運行する路線が重複しないようにしています。

ふくつミニバスを利用しよう

運賃

中学生以上200円 小学生100円

運休日

日曜日、祝日、12月31日～1月4日

乗り方

バス停の前でバスをお待ちください。バス停の向かい側に停車する箇所がありますが、バス停の標識が無くてもバスは停車します。バス停がある方向と逆の方向へ行くときは、バス停の向かい側でお待ちください。

降り方

運転手に降りる場所を伝えてください。

お得な割引サービス

●乗り継ぎ

乗り継いだミニバスの運賃が半額になります。最初に乗ったバスを降りる時に「乗り継ぎをすること」と「目的のバス停」を運転手に伝えてください。車内で乗り継ぎ券を発行します。

【乗り継ぎ券を利用できるバス停】福津市役所、カメラステージ、ふくとびあ、総合病院前、宮城病院前、宮地岳宮前、宮司コミュニティセンター、若木台6丁目1、JR福間駅みやじ口、八並北口、新海、堅川入口、宮司4丁目、四角 ※3路線目からの乗り継ぎは無料

●ミニバス割引証

市内在住で70歳以上(誕生日有効)の人は運賃が半額になる割引証を交付しています。

【交付場所】市まちづくり推進室、津屋崎行政センター

【必要なもの】健康保険証やマイナンバーカードなど本人確認ができるもの※代理の場合は、交付を受ける人と代理人のそれぞれの本人確認ができるもの

●障害者手帳などを持っている人

身体障害者手帳や療育手帳、精神障害者保健福祉手帳を持っている人は、運転手に提示することで運賃が半額になります。

●運転免許証を自主返納した人

市内在住の70歳以上で、有効期限内の運転免許証を自主返納して6カ月以内の人に、運賃が1年間無料になる乗車券を交付します。※免許証の自主返納は宗像警察署で受け付けています

【交付場所】市まちづくり推進室

【必要なもの】運転免許取消通知書と健康保険証やマイナンバーカードなど本人確認ができるもの※代理の場合は、交付を受ける人と代理人のそれぞれの本人確認ができるもの

問い合わせ 市まちづくり推進室 ☎43・8115



コミュニティサイクルが 民営化されます

市では平成23年から「福間駅前駐輪場」「津屋崎千軒なごみ」などにサイクルポートを設置し、シェアサイクル「コミュニティサイクル」を実施してきました。この事業を6月30日(土)をもって廃止します。

6月1日(金)からは民間のシェアサイクル事業が開始されます。今後、このシェアサイクル事業を支援していきます。詳しくは「ecobike」のホームページをご覧ください。



重要な役割を担っています。今後のふくつミニバスのあり方を考えるためには新たな役割とのバランスをとることが必要です。また、交通弱者の移動手段という役割についても、ニーズや採算性の観点から、ふくつミニバスではない形態のほうが有効であることも考えられます。

**ご意見を
お聞かせください**
これからのふくつミニバスは、交通弱者だけでなく、通勤・通学する人や観光客などにとっても便利な交通機関にする必要があります。ふくつミニバスの利用者の皆さんは、利用目的などを教

えてください。また、利用していない皆さんも、通院や買い物などで、どのくらいの頻度で使いたいという希望や、観光のためにはこの路線が望ましいのではないか、などのご意見をお寄せください。路線ごとの役割などを検討し、より使いやすい公共交通機関としてのふくつミニバスを目指します。



▲ふくつミニバスの運転手で平和タクシーの沼田 国次さん

運転手からも提案します

お客さまを安心安全に目的地に届けることが運転手の任務です。しかし、時間帯によっては利用者が一人もいない路線もあります。運転手目線で効率の良い路線や助成制度など提案していきたいと思っています。



▲市地域交通体系協議会の委員を務める上田 穂積さん

常に利用者の目線で

市地域交通体系協議会とは、公共交通機関をより充実させるために民間事業者などと話し合う場です。私は住民代表として委員になりました。みんなが利用しやすいような提案ができればと思います。

公共交通機関は通勤や通学、病院、買い物などの移動手段として私たちの生活に必要なものです。しかしその運営は運賃収入で賄われているため、利用者の減少は公共交通機関の廃止につながります。そうなれば、利用者の日常生活は不便になってしまいます。また、普段は車を利用していても、けがや病気などで運転できなくなった時などに代わりの移動手段として誰もが利用することになるかもしれません。私たちが積極的に公共交通機関を利用することで、未来の貴重な生活インフラを維持することにつながります。

**公共交通としての
ふくつミニバス**
今後、新たに公共交通機関に求められる役割として、新原・奴山古墳群などの観光資源へのアクセスや、人口が増

加している西福岡地区の通学、通勤手段が挙げられます。民間事業者だけではこれらのニーズに対応ことは難しく、ふくつミニバスとの連携も検討していくことが必要です。一方でふくつミニバスは、交通弱者のための移動手段と

市民の声を生かした 地域公共交通形成計画を策定します

交通網形成計画と 地域交通体系協議会

市は、市民生活を支える効率的で持続可能な公共交通網のあり方と、それを実現していくための方針をまとめる「福津市地域公共交通形成計画」を策定します。この計画に基

づき、ふくつミニバスの路線の見直しや時刻などの改正を行います。公共交通を調整する機関として、公募した市民や学識経験者、民間事業者、郷づくりや観光協会など15人で構成する「市地域交通体系協議会」を昨年9月に発足しました。これは、現在の公共交通やそ

れ以外の移動手段の状況、市民の意見などを考慮して、地域の公共交通のあり方を検討する機関です。

公共交通は 大切な生活インフラ

市内の公共交通機関やふくつミニバスの現状と今後について、皆さんの考えをお聞かせください。ご意見はファクスやメールでも受け付けます。※ファクス、メールの場合は題名を「公共交通の未来」としてください

市まちづくり推進室 FAX43・3168、e-mail machizukuri@city.fukutsu.lg.jp

よろしければ、あなたのことを教えてください

氏名	
住所	
性別	
年齢	
ミニバスの利用目的	
ミニバスの利用頻度	毎日・週に数回・月に数回・年に数回・利用したことがない